



みなさん、こんにちは。今春のニュースレターをお届けいたします。今年の冬はとっても寒かったですね。OECでは、今年1月に、宮古島川満集落の農家の納屋を借りて川満事務所を立ち上げました。宮古島において今後の活動の拠点にするべく、現在も手作りで事務所の整備をしています。これまでの沖縄本島での環境啓発活動に加え、少しずつですが宮古・八重山地域での活動もひろげているところです。その様子は、3ページで紹介していますので、チェックしてみてくださいね！今年度も、会員の皆様をはじめ、多くの関係者の方々のご理解とお力添えで活動を展開してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



東洋の「ガラパゴス」琉球列島は泣いています！

ガラパゴス諸島は、南米大陸の西太平洋上に在る大小20以上の島や岩礁からなり、イグアナ、ゾウガメ、フィンチなどでよく知られているところです。1835年、島に上陸したダーウィンは、南米大陸との動植物の違いに驚いています。特に、彼は「生物は増えていく中で、生存競争が起こり、自然により適合した種が生き残る」という、「自然選択」と「適者生存」の考えを「種の起源」にまとめました。同諸島は、1978年世界ではじめて自然遺産に登録され、現在エクアドル共和国の国立公園として厳重に管理されています。

ところで、「東洋のガラパゴス」とよばれる琉球列島は、地史的に大陸島として形成され、そこには多くの固有種の動物や植物が在ります。イタジイの森やサンゴ礁、それに円錐カルストは、琉球列島が熱帯～亜熱帯環境であることを示します。本州でも、今から1600万年前の地層からマングローブ林をつくるオヒルギの花粉化石が発見され、かつてそのような環境にあったことが分かっています。さらにその環境は、時間とともに南下したことが化石により証明されています。現在の琉球列島のヤンバルの森や生き物がかろうじて熱帯～亜熱帯環境の北限を維持していると思えばよいでしょう。

しかし、ヤンバルの森は、今急速に変化しつつあります。国際的に保護された本物のガラパゴスとは比べようがありません。「東洋のガラパゴス」は、消える運命にあるのでしょうか。

おきなわ環境クラブ会長 大城逸朗



最近の活動(2007年10月～2008年3月)

助成金事業

地球環境基金助成(独立行政法人 環境再生保全機構)

- 環境教育プログラム教材作成のためのフィールド調査 : 宮古島3回、水納島1回
 - サンゴ礁海岸の生態系調査とプログラム作成のためのフィールド調査 : 沖縄本島大度海岸2回、
- 10/1 第1回 報得川セミナー「報得川水質の現状」講師:下地邦輝(OEC事務局長)
「私達の生活排水」講師:小波津昭子・根川八重子(西原町生活排水対策指導員) 場所:糸満市役所
- 12/24 第2回宮古島「添道サガリバナワークショップ」場所:宮古島市添道 人数:10名
- 1/19 第2回OEC博物館講座 宮古島市博物館共催「宮古の地史」セミナー 講師:大城逸朗(OEC会長) 場所:宮古島市総合博物館 人数:55名
- 1/20 第3回宮古島「添道サガリバナワークショップ(記念植樹)」場所:宮古島市添道 人数:30名
- 1/25-27 平成19年度「環境NGOと市民の集い」出席 下地邦輝(OEC事務局長)、川上典子(OEC研究員) 場所:宮崎県
- 1/27 古見こどもエコクラブ共催「西表島古見集落パギナカー園地内のゴバンノアシ植樹会」場所:古見、パギナカー園地内 人数:30名
- 2/23 宮古島市「添道サガリバナワークショップ」の諸準備(補植地点確認、ホテイアオイ除去) 場所:宮古島市添道
- 3/16 第4回 宮古島「添道サガリバナワークショップ」場所:宮古島市添道 人数:20名

全労済地域貢献助成金事業 特別助成団体(全国労働者共済生活共同組合連合会)

- 11月 宮古添道サガリバナ遊水地の雑草・雑木の除去作業実施 場所:宮古島市添道
- 12/5 財)エンジニアリング振興協会「沖縄水問題に関する見学とヒアリング」(水資源研究シーズ調査団)ガイド:山本ゆかり 場所:川満マングローブ、漁港視察解説案内
- 1/30 大阪修学旅行生「川満ウブカーマングローブ植樹・観察とアーサ採り体験」ガイド:砂川明男(宮古エコツアーガイド) 場所:川満ウブカー、川満漁港 人数:9名
- 2/13 伊良部高校「友利アマガー・地下ダム」現場学習 ガイド:川満きよみ(宮古エコツアーガイド) 場所:友利アマガー、宮古地下ダム 人数:49名

受託事業

沖縄県地域環境セミナー 年6回(沖縄県文化環境部環境政策課)

- 1/20 第16回「首里周辺の湧水めぐり」講師:保村亨(沖縄エコツアーガイド) 場所:首里、金城町周辺 人数:27名
- 2/22 第17回「エコクッキング」講師:玉那覇春恵、上当末子(アースの会) 場所:浦添市リサイクルプラザ 調理室 人数:9名
- 3/18 第18回沖縄の身近な園芸植物「ゲットウの仲間 ショウガ科植物の楽しみかた」講師:比嘉正一(沖縄東南植物楽園 リーダー) 場所:県庁4階 人数:20名

沖縄県地域環境センター・出前講座 毎月1回(沖縄県文化環境部環境政策課)

- 11/1 第19回「やんばるの森と環境税について」講師:久高将和(国頭ツーリズム協会顧問) 場所:琉球大学教育学部付属小学校 人数:38名
- 1/8 第20回「雄樋川の水環境」講師:野波秀行(県南部福祉保健所 生活環境班) 場所:南城市立船越小学校 人数:49名
- 2/19 第21回「那覇市のマングローブ」講師:下地邦輝(沖縄県衛生環境研究所 主任研究員) 場所:那覇市立城西小学校5年生4クラス 人数:134名
- 2/27 第22回「グスクのはなし」講師:屋嘉比柴紀(沖縄エコツアーガイド) 場所:南城市佐敷小学校6年生 人数:74名
- 3/19 第23回「家庭でできる生活排水対策」講師:比嘉宥海(浦添市生活排水対策指導員) 場所:南城市大里庁舎 人数:13名
- 3/24 第24回「第2回報得川セミナー～家庭の浄化槽について～」講師:田港朝幸((社)沖縄県環境整備協会 事務局長) 場所:糸満市役所 人数:16名

沖縄県地域環境センター・野外觀察会 年6回(沖縄県文化環境部環境政策課)

- 10/20 「宮古川満マングローブ観察会」講師:砂川博秋・山本ゆかり(宮古エコツアーガイド) 場所:宮古島市川満 人数:30名
- 3/22 第12回「首里周辺の湧水めぐり」講師:保村亨(沖縄エコツアーガイド) 場所:首里儀保周辺 人数:25名

独立行政法人国際協力機構(JICA)沖縄国際センター

- 10/1-12 地域別研修 第2回島嶼国漁村主導型水産業多様化促進コース 場所:沖縄県内各地 人数:8名
- 1/14-2/22 地域別研修 第1回持続可能な観光開発(カリコム諸国) 場所:沖縄県内各地 人数:8名

自主事業(環境教育・エコツーリズム事業) 各協議会・検討委員会の参加等

- 10/23 「エコツーリズム推進法」説明会 出席 OEC事務局 場所:県庁大講堂
- 11/23 『安謝川で「水生生物調査」をやってみよう!』講師:保村亨(沖縄エコツアーガイド) 場所:安謝川(銘苅市営団地裏手) 対象:内間自治会員(子供～大人)
- 12/8 第13回「国場川 水あしび」ブース出展参加 場所:環境省 漫湖・水鳥湿地センター 来場者:約300名
- 1/5 RBC-iラジオ「土曜大好き」ラジオ出演 吉田透(OEC事務局次長)
- 2/20-21 宮古島市「新エネルギー事業導入セミナー及び現地説明会」参加 横山幸子(OEC宮古支部長)、川満小霧(OEC宮古支部事務局長)
- 1/21 「宮古島水循環協議委員会」出席 下地邦輝(OEC事務局長) 場所:宮古島市役所
- 1/27 2007年度アジェンダ21「県民環境フェア in うるま市」 場所:うるま市役所(本庁広場) 来場者:約2,900名
- 1/29 「宮古島エコアイランド推進委員会」出席 川満小霧(OEC宮古支部事務局長) 場所:宮古島市役所
- 2/22 ～世界遺産「首里城」とその周辺を訪ねて～ツアー ガイド:屋嘉比柴紀(沖縄エコツアーガイド) 場所:首里城・金城町石畳 人数:1名
- 3/1 「漫湖の保全事業に関するワークショップ」出席 下地邦輝(OEC事務局長) 場所:漫湖水鳥・湿地センター

～活動を少しでも詳しく紹介しましょうね～

西表島『古見集落バギナカー園地内のゴバンノアシ植樹会』

西表島の古見集落で、当クラブと古見エコクラブの共催で「ゴバンノアシ植樹会」が行われました。今回植樹したゴバンノアシは、石垣島以南のマングローブ後背地や海岸に分布しますが、自生の株が八重山の島々から消えそうになっており、ごく近い将来に絶滅する危険性が極めて高い種として、環境省レッドデータブックの絶滅危惧IA類(CR)に指定されています。植樹会に先立ち、5年前から苗木の育苗にご協力をいただいた森林総合研究所林木育種センターさんや西表森林環境保全ふれあいセンターさんから植物について名前の由来、種子の構造などを写真や実物を使って説明をいただきました。公園へ移動したあと、子どもと大人達と一緒に穴を掘り、ゴバンノアシ2本を植樹しました。植樹した木は、子供達と計測、記録し、「植物名および植樹日時」を記した簡易樹名札を立てました。これからも、この木の成長を皆で見守ってゆくことを誓って無事に植樹会を終えることが出来ました。



第2回 OEC 博物館講座 宮古島市博物館共催「宮古の地史」セミナー

宮古島にて宮古島市総合博物館と共催で『琉球の自然と宮古島の成り立ち』をテーマにおこなわれた環境クラブの大会会長を講師にセミナーを開催しました。当日は40人の定員をオーバーする盛況振りでした。内容は「宮古島は一度海の中に沈んだのか？何故ハブが分布していないのか？」を解説。沖縄が百万年以上前、中国と陸続きであり、地殻変動を繰り返しながら現在のような琉球列島に変化してきた事、現在発見されている生物の化石は陸続きの頃、大陸から移動してきたことの証と紹介。宮古島ではミヤコノロジカ、ハタネズミ、宮古の離島の大神島では象やスポンの化石も発見されています。宮古島のように一度海に沈んだためハブが生息しない島ができた事や、現在も地殻変動は続き、一年間に2cmも動いているという話に会場の皆さんも興味津々の様子で、講演後の質疑応答ではたくさんのご質問を頂きました。また、大会会長のジョークを交えたトークが会場の笑いを誘い、楽しいセミナーとなりました。



第17回 沖縄県地域環境セミナー「エコ・クッキング」

台所から環境について見直してみることを目的として、エコ・クッキングのセミナーを開催しました。講師から、「エコ・クッキングは調理の過程だけでなく、レジ袋を断る、国産の商品を選ぶなど買い物から始めることが大事」と話があり、カレーライスの調理に取り掛かりました。参加者は主婦の方ばかりだったので、皆さん手際よく行っていました。カレーを煮込んでいる間には、廃油による石けん作りと、太陽光を利用したソーラークッカーでのゆで卵作り、ダンボールを利用した生ゴミ処理方法の紹介もありました。できあがったカレーを試食してみると、ニンジンやジャガイモがまだ固かったのですが、いろいろ工夫できるとのアドバイスがありました。水やガスの省エネの仕方や、食材を無駄なく調理するなど勉強になったとの感想を頂きました。



第20回 沖縄県地域環境センター出前講座「雄樋川の水環境」南城市立船越小学校

学校近くの雄樋川の水環境や汚染源を知り、周囲の環境を守るために自分達ができることを理解することを目的として行いました。国場川、饒波川などの南部にある川の紹介や、川が汚れる原因として、赤土や畑からの農薬、畜舎からの汚水、家庭排水など上流からいろんなものが流れ込んでくると話がありました。そして、雄樋川、水道水、米のとぎ汁、報得川の水を使って、水質を調べる簡単な実験を行いました。米のとぎ汁が一番汚れているという結果に、生徒達は意外だったようです。生徒からの「川にはどんなゴミが多いか」との質問に、ペットボトルや空き缶、レジ袋などが多く見られるとのこと、ポイ捨てをする心無い人達によってゴミが溜まってしまおうと告げました。講話終了後の生徒の感想には、「米のとぎ汁は植木にかける」「ゴミを捨てる人がいたら注意をする」「物を大事にしてゴミを減らす」と書かれており、些細なことでも自分たちに何ができるか理解してくれたようです。



JICA 沖縄地域別研修 第2回『島嶼国漁村主導型水産業多様化促進』コース

島嶼国における水産業の多様化の促進を目的に、太平洋地域の行政官や技術普及員等の8名を対象に、沖縄で2週間、フィジー共和国で4週間の研修を実施した。沖縄では、国頭漁業協同組合の全面協力を得て竹製の伝統的パヤオの製作や投入・管理技術を中心に勉強した。漁協職員や組合員の皆さんは、熱心にかつ暖かく受入れていただき意義深い研修となった。また糸満市で開催された「南部豊かな海作り大会」に参加し、糸満式パヤオ製作や水産業啓蒙活動も勉強ができた。沖縄研修終了後、研修員はフィジーへ移動し、(株)国際水産技術開発の研修運営のもと、現地で調達できる資材や機材を使用した中層パヤオの製作や海洋敷置、増養殖や加工技術、資源管理の観点に基づく環境保全と観光業への展開等を勉強し、各国における適用可能な技術の習得をおこなった。当研修は、3年間、同じ研修員が研修に参加する方式を取り、JICA 研修でははじめての試みである。研修員自身で作成・実施する行動計画の実施状況の把握が直接可能になり、今後の課目提供や研修のあり方に大いに参考になった。



沖縄の日本本土復帰の翌年、突然会社の上司から沖縄担当を命ぜられ、驚きもしたが本土とは違う別天地での出会いと感動を求め赴任。5年の任期を終え本土へ帰ったが沖縄の自然と人が忘れられず、又の担当を期待。定年間に再度転勤、沖縄での定年を迎えた頃には沖縄の文化、芸能(三線)の虜となり移住を決意した所へ第一回目のエコツアーガイド養成講座と出会い歴史、文化、自然を専門的に勉強出来る機会に恵まれ、自分自身が体験した沖縄の自然、文化、芸能、歴史の素晴らしさを多くの人に伝えたいとの思いでガイドになりました。

●ガイドをして感じた事：



自分の勉強した事を出来るだけ多くお客様へ伝えたい一心で、サービスのつもりが喋りすぎ、お客様に負担をかけてしまうこともしばしば。お客様の望まれる事を察知し、要点を絞り喋りすぎないことの難しさを感じます。

●最後に一言：

お客様の興味度、博識度、さまざま。日々好奇心のアンテナを高く特に地元の長老のお話など大事に聞くことが勉強になります。

(沖縄エコツアーガイド 1期生：吉田豊英)

琉球弧・野山の花

和名：リュウキュウハナイカダ
(琉球花筏) ミズキ科 ハナイカダ属
学名： *Helwingia japonica ssp. liukuensis*
分布：奄美大島～沖縄島固有 (固有亜種)
方言：トリフク (奄美)



葉表面の中央脈上に淡緑色の小さい花をつける。液果は球形で径約5mm、黒褐色に熟す。

ハナイカダの亜種で、葉の幅が狭く、山地に見られる落葉低木。高さ2m程度。花は冬～春に開花。雌雄異株。若葉は山菜として利用される。葉っぱの真ん中に花が咲いて、花が葉のイカダに乗っているとみただことから名前がついたと言われる。



雌花・柱頭が
四つのもん



葉の真ん中から、小さいかわいい花が咲いています！驚きです ♪♪

OECからのお知らせ

♪ 前回お知らせした行事の開催報告を OEC のHP に掲載しています。是非チェックしてみてくださいね！

- 平成19年12月8日(土)『第13回 国場川水あしび』
- 平成19年1月27日(日)『2008 県民環境フェア in うるま市』

♪ 2004年、漫湖公園の左岸、南岸に植樹した「サガリバナ」について、管理者になった方はいらっしゃいませんか？ OEC で、これまでに1000本植えたサガリバナも、台風で折れてしまっていたり、誰かに抜かれてしまっていたり、残念な行為もある中、何本かは、頑張っって花をつけています。

漫湖公園に植樹した「サガリバナ」について、管理を続けている方、また何か情報を持っている方がいらっしゃいましたら、是非 OEC までご連絡下さい！ご希望やご相談もお待ちしております！ (^ ^)

♪ OEC に4月から新しい職員1名が加わりました！これからの OEC 活動に向けて一緒に楽しく頑張っていきたいと思っております！



今後の主な予定

沖縄県地域環境センター (2008年4月～2008年8月)

- 5月 第19回 地域環境セミナー
「緑化で地球温暖化対策」 場所：未定
- 6月 第20回 地域環境セミナー
「エコアクション21」 場所：未定
- 7月 第13回 野外観察会
「夜のサガリバナ鑑賞会」 場所：県庁構内
- 8月 第14回 野外観察会
「水生生物調査」 場所：平南川
- 〃 第15回 野外観察会
「宮古島の湧水と地下ダム資料館」
場所：友利あまがー・地下ダム資料館

※ 開催内容は都合により変更することがあります。詳しくは、下記までお問い合わせください。
沖縄県地域環境センター (県庁4階) TEL: 866-2638
<http://www.ii-okinawa.ne.jp/people/kankvo-center/>

助成金活動

■平成19年8月～平成20年7月

平成19年度 全労済地域貢献助成事業 (継続中)
「地域で創る宮古島の水辺環境学習と体験プログラム」

※そのほかにも助成金事業に申請中！

JICA 研修事業

■4～6月

第5回 熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム企画・運営コース

■8～9月

第3回 持続可能な観光開発 (ミクロネシア3国)

■10～11月

第3回 島嶼国漁村主導型水産多様化促進コース

OEC (おしいー) ニュースレター No.11 2008年4月発行
特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ 国場事務所
〒902-0075 沖縄県那覇市国場370-107
Tel. 098-833-9493 Fax. 098-833-9473
E-mail: kokuba@npo-oec.com
URL: <http://www.npo-oec.com/>

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ 宮古支部川満事務所
〒906-0301 沖縄県宮古島市下地字川満179
Tel&Fax. 0980-76-2696
E-mail: oec-m1@miyako-ma.jp